令和5年度 学期 芸術科【音楽I】 評価規準

愛媛県立今治西高等学校 芸術科

| 教 科 | 芸術 | 科 | 目 | | 音楽 I | |
|-------|---|-------------------------|---|--|--|--|
| 単 位 数 | 2 | 学 | 年 | 1 | 類 型 | 共通 |
| 教 科 書 | 高校生の音楽 | £1 (\$ | 教育芸術 | 社) | | |
| 科目目標 | や音楽、音楽文 (1) 曲想と音 いて理解す 身に付ける (2) 自己のイ よさや美し (3) 主体的・ 心情を育む | 化楽るよメさ協ととのとう一を働としていました。 | - 広告もすをらここく 関文化 ののでも いる も 味 楽 感にる つわ 楽 感性 | る資質・能力を次的・歴史的背景など 飲・歴史的背景など 意工夫を生かした音 音楽表現を創意工 で聴くことができ 幅広い活動に取り終 | のとおり育成すだとの関わり及び 音楽表現をするだ 大することや、音 るようにする。 組み、生涯にわた | 正活や社会の中の音ることを目指す。 が音楽の多様性についるに必要な技能を 音楽を評価しながら に当音楽を愛好する によって生活や社会 |

各題材における評価の規準<1学期>

| 85 ++ | 歌唱1 楽曲に | ふさわしい発声を身に付け、表現る | を工夫しよう |
|----------------|--|--------------------|------------------|
| 題材 | 「翼を | ください」(合唱)、「野ばら」(独唱 | 昌、合唱) |
| 評価期間 | 4月~7月 | | |
| | (1) 様々な表 | 現形態による歌唱表現の特徴につい | いて理解する。創意工夫を生かし |
| | た音楽表現 | をするために必要な、表現形態の物 | 特徴を生かして歌う技能を身に付 |
| | ける。 | | |
| | (2) リズム、 | 速度、旋律、強弱などの音楽を形っ | づくっている要素を知覚し、感受 |
| 題材の目標 | したそれら | の働きについて考察し、どのように | こ表すかについて表現意図をもっ |
| 超物の日保 | て歌唱する | ことができる。詩の情感を味わいれ | ながら、自己のイメージをもって |
| | 音楽表現を創意工夫することができる。 | | |
| | (3) 主体的・協働的に合唱や独唱の表現活動に取り組む態度を養う。グループ活 | | |
| | 動を通して | 、作品理解や音楽表現について思考 | まし意見交換を行うことで、興味・ |
| | 関心を深め | 、その価値や魅力を理解しようとな | する態度を養う。 |
| 知識 | ▪技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・様々な表現形態による歌唱表 | | ・リズム、速度、旋律、強弱など | ・主体的・協働的に合唱や独唱の |
| 現の特徴につ | いて理解してい | の音楽を形づくっている要素 | 表現活動に取り組もうとして |
| る。 | | を知覚し、感受したそれらの | いる。 |
| ・創意工夫を生 | かした音楽表現 | 働きについて考察し、どのよ | ・グループ活動を通して、作品理 |
| をするために | 必要な、表現形 | うに表すかについて表現意図 | 解や音楽表現について思考し |
| 態の特徴を生かして歌う技能 | | をもって歌唱することができ | 意見交換を行うことで、興味・ |
| を身に付けて | いる。 | る。 | 関心を深め、その価値や魅力 |
| | | ・詩の情感を味わいながら、自 | を理解しようとしている。 |
| | | 己のイメージをもって音楽表 | |

| | 現を創意工夫することができ |
|--|---------------|
| | る。 |
| 観点 | 評 価 内 容 |
| 知識・技能 | ・ワークシート |
| 和邮"投柜 | ・実技発表 |
| | ・ワークシート |
| 思考・判断・表現 | ・実技観察 |
| | ・実技発表 |
| 主体的1.000000000000000000000000000000000000 | ・振り返りシートの記述内容 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・教師による活動観察 |

| 題材 | 創作1 リズム | で作曲してみよう 西洋音楽の楽頭 | 典から音符と休符、拍子 |
|---|---|---|---|
| 評価期間 | 5月~6月 | | |
| 題材の目標 | (1) 音を連ねたときの響きや、音型や構造の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化などの手法を活用しで音楽を作る技能を身に付ける。 (2) リズム、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫することができる。 (3) 自己のイメージをもって創作表現を行う学習活動に興味・関心をもって、主体的・協働的に取り組む態度を養う。 | | |
| 知識 | ・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| や構造の特徴 たいイメージ 解している。 ・創意工夫を生 をするために 化などの手法 | きの響きや、音型 について、表し と関わらせて理 かした創作表現 必要な、反復、変 を活用しで音楽 と身に付けてい | ・リズム、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、 それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫することができる。 | ・自己のイメージをもって創作 表現を行う学習活動に興味・ 関心をもって、主体的・協働的 に取り組もうとしている。 |
| 観 | 点 | 評価 | 内 容 |
| 知識・技能 | | ・ワークシート・作品提出 | |
| 思考・判断・表現 | | ワークシート作品発表 | |
| 主体的に学習に | こ取り組む態度 | ・振り返りシートの記述内容 ・教師による活動観察 | |

各題材における評価の規準<2学期>

| 谷翅材におりる 記 | 評価の規準<2字 | 明 <i>></i> | |
|------------------|-------------------------------------|------------------------------|------------------|
| 題材 | 歌唱2 様々な | 国の言葉で、曲の雰囲気を味わいた。 | ながら歌唱しよう |
| 超 物 | 「我が | 太陽」、「オー シャンゼリゼ」、「荒 | 城の月」、「Tonight」 |
| 評価期間 | 7月~10月 | | |
| | (1) 曲想と音 | 楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背 | 「景との関わりについて理解する。 |
| | 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉 | | |
| | の発音、身 | 体の使い方などの技能を身に付ける | 3 . |
| | (2) リズム、 | 旋律、テクスチュア、形式などの | 音楽を形づくっている要素や要素 |
| 題材の目標 | 同士の関連 | を知覚し、それらの働きを感受した | ながら、知覚したことと感受した |
| 超初の日保 | こととの関 | わりについて考え、どのように表 ^っ | すかについて表現意図を持って歌 |
| | 唱すること | ができる。詩の情感を味わいなが | ら、自己のイメージをもって音楽 |
| | 表現を創意 | 工夫することができる。 | |
| | (3) 主体的・ | 協働的に歌唱の学習活動に取り組る | み、自らの感性を高めながら、音 |
| | 楽文化に親 | しみ豊かに関わろうとする態度を | 養う。 |
| 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化 | | ・リズム、旋律、テクスチュア、 | ・主体的・協働的に歌唱の学習活 |
| 的・歴史的背景との関わりに | | 形式などの音楽を形づくって | 動に取り組み、自らの感性を |
| ついて理解している。 | | いる要素や要素同士の関連を | 高めながら、音楽文化に親し |
| ・創意工夫を生かした歌唱表現 | | 知覚し、それらの働きを感受 | み豊かに関わろうとする態度 |
| をするために必要な、曲にふ | | しながら、知覚したことと感 | を身に付けようとしている。 |
| さわしい発声、言葉の発音、身 | | 受したこととの関わりについ | |
| 体の使い方な | こどの技能を身に | て考え、どのように表すかに | |
| 付けている。 | | ついて表現意図を持って歌唱 | |
| | | することができる。 | |
| 観 | 点 | 評価 | 内 容 |
| ∕r⊓≣±⊾ | - +士会b | ・ワークシート | |
| 知識・技能 | | ・実技発表 | |
| 思考・判断・表現 | | ・ワークシート | |
| | | • 実技観察 | |
| | | ・実技発表 | |
| <u> </u> | - T- 11 40 1. 45 - | ・振り返りシートの記述内容 | |
| 土体的に子省 | に取り組む態度 | ・教師による活動観察 | |
| | | | |

| 題材 | 器楽1 ギターの響きを楽しもう |
|-------------|---|
| 超 M | 「Happy Birthday To You」、「カントリー ロード」、「いつも何度でも」 |
| 評価期間 | 7月~11月 |
| | (1) 曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解する。創意工夫を生かした |
| 題材の目標 | 器楽表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に |
| 超物の日標 | 付ける。 |
| | (2) 音色、リズム、テクスチュアなどの音楽を形づくっている要素を知覚し、そ |

れらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて 考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫することができる。

(3) 楽曲にふさわしい音楽表現の創意工夫や音色の探求に、興味・関心をもち、 主体的・協働的に器楽の演奏活動に取り組む態度を養う。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------------------|---|----------------|
| ・曲想と楽器の音色や奏法との | ・音色、リズム、テクスチュアな | ・楽曲にふさわしい音楽表現の |
| 関わりについて理解してい | どの音楽を形づくっている要 | 創意工夫や音色の探求に、興 |
| る。 | 素を知覚し、それらの働きを | 味・関心をもって、主体的・協 |
| ・創意工夫を生かした器楽表現 | 感受しながら、知覚したこと | 働的に器楽の学習活動に取り |
| をするために必要な、表現形 | と感受したこととの関わりに | 組もうとしている。 |
| 態の特徴を生かして演奏する | ついて考え、自己のイメージ | |
| 技能を身に付けている。 | をもって器楽表現を創意工夫 | |
| | している。 | |
| 観 点 | 評価 | 内 容 |
| | ・ワークシート | |
| ケロ =並 → 十一 ク と | | |
| 知識・技能 | ・実技発表 | |
| 知識・技能 | ・実技発表・ワークシート | |
| 思考・判断・表現 | | |
| | ・ワークシート | |
| | ・ワークシート・実技観察 | |

| 題材 | 鑑賞1 舞台工 | ンターテイメントの音楽表現につい | ハて感じ取ろう |
|-----------------|-------------------------------------|------------------------------|------------------------|
| 超 物 | ミュージ | カル「ウエスト・サイド・ストー」 | リー」、歌舞伎「京鹿小娘道成寺」 |
| 評価期間 | 9月~11月 | | |
| | (1) 作品や音 | 楽の特徴と文化的・歴史的背景、何 | 也の芸術との関わりについて理解 |
| | する。また、我が国の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解する。 | | |
| | (2) 音色、リ | ズム、旋律、テクスチュアなど音楽 | 巣を形づくっている要素や要素同 |
| | 士の関連を | 知覚し、それらの働きを感受しなれ | がら、知覚したことと感受したこ |
| 題材の目標 | ととの関わ | りについて考えるとともに、自分 ^々 | や社会にとっての音楽の意味や価 |
| | 値について | 考え、音楽のよさや美しさを自らワ | 未わって聴くことができる。 |
| | (3) 物語に描 | かれた社会背景や登場人物の心情。 | と、音楽表現の創意工夫の関係に |
| | ついて探求することに、興味・関心をもって、主体的・協働的に鑑賞活動に取 | | |
| | り組む態度を養う。 | | |
| 知識 | • 技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・音楽の特徴と文化的・歴史的背 | | ・音色、リズム、旋律、テクスチ | ・物語に描かれた社会背景や登 |
| 景、他の芸術との関わりにつ | | ュアなど音楽を形づくってい | 場人物の心情と、音楽表現の |
| いて理解している。 | | る要素や要素同士の関連を知 | 創意工夫の関係について探求 |
| ・我が国の伝統音楽の種類とそ | | 覚し、それらの働きを感受し | することに、興味・関心をもっ |
| れぞれの特徴について理解し | | ながら、知覚したことと感受 | て、主体的・協働的に鑑賞の学 |
| | | | |

| ている。 | したこととの関わりについて | 習活動に取り組もうとしてい |
|--|---------------|---------------|
| | 考えるとともに、自分や社会 | る。 |
| | にとっての音楽の意味や価値 | |
| | について考え、音楽のよさや | |
| | 美しさを自ら味わって聴いて | |
| | いる。 | |
| 観 点 | 評価 | 内 容 |
| 5π=± Φ ++ Δν. | ・ワークシート | |
| 知識・技能 | ・教師による活動観察 | |
| | ・ワークシート | |
| 思考・判断・表現 | ・教師による活動観察 | |
| → /+ /- /- /- /- 17 / - ID / - /- /- /- /- /- /- /- /- /- /- /- /- | ・振り返りシートの記述内容 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・教師による活動観察 | |

| | 鑑賞2 音楽鑑 | 賞の楽しみを伝え合おう | | |
|---------------|--|-------------------------------------|------------------|--|
| 題材 | 音楽鑑 | 賞レポート 交響詩「魔法使いの詞 | 弟子 」 | |
| 評価期間 | 8月、11月 | | | |
| | (1) 曲想や表 | (1) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深める。 | | |
| | (2) 音色、リズム、速度、旋律、強弱などの音楽を形づくっている要素や要素同 | | | |
| | 士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこ | | | |
| 題材の目標 | ととの関わ | りについて考えるとともに、曲や液 | 寅奏に対する評価とその根拠につ | |
| | いて考え、 | 音楽のよさや美しさを自ら味わって | て聴くことができる。 | |
| | (3) 自分や社 | 会にとっての音楽の意味や価値につ | ついて興味・関心をもって探求し、 | |
| | 主体的・協 | 働的に鑑賞活動に取り組む態度を著 | 養 う。 | |
| 知識 | 技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| ・音楽の特徴と | 文化的•歷史的背 | ・音色、リズム、速度、旋律、強 | ・自分や社会にとっての音楽の | |
| 景、他の芸術 | うとの関わりにつ | 弱などの音楽を形づくってい | 意味や価値について探求する | |
| いて理解して | いる。 | る要素や要素同士の関連を知 | ことに、興味・関心をもって、 | |
| | | 覚し、それらの働きを感受し | 主体的・協働的に鑑賞の学習 | |
| | | ながら、知覚したことと感受 | 活動に取り組もうとしてい | |
| | | したこととの関わりについて | る。 | |
| | | 考えるとともに、曲や演奏に | | |
| | | 対する評価とその根拠につい | | |
| | | て考え、音楽のよさや美しさ | | |
| | | を自ら味わって聴いている。 | | |
| 観 | 点 | 評価 | 内容 | |
| 左□ = 鈡 | - +士台2 | ・ワークシート | | |
| 知識・技能 | | ・教師による活動観察 | | |
| m + | | ・ワークシート | | |
| □ 思考・判 | 断・表現 | ・教師による活動観察 | | |
| | | | | |

主体的に学習に取り組む態度

- ・振り返りシートの記述内容
- ・教師による活動観察

各題材における評価の規準<3学期>

| 題材 | 器楽2 筝音楽 | の特徴を感じ取ろう 「六段の調べ | <u>~</u>] |
|--|--|--|-------------------|
| 評価期間 | 12月 | | |
| 題材の目標 | (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。 (2) 音色、旋律、強弱などの音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもって器楽表現を創意工夫することができる。 (3) 筝音楽のよさや文化的背景について、興味・関心をもち、自己のイメージをもって、曲想にふさわしい奏法や音色の探求する学習活動に、主体的・協働的に取り組む態度を養う。 | | |
| 知識 | | 思えて扱う。 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・曲想と音楽の構造や文化的・歴 ・音色、旋律、強弱などの音楽を ・筝音楽のよさや文化的背景との関わりについて 形づくっている要素を知覚 ついて、興味・関心をもち は、それらの働きを感受しな このイメージをもって、 がら、知覚したことと感受し にふさわしい奏法や音色の をするために必要な、曲にふ たこととの関わりについて考 求する学習活動に、主体的 | | ・筝音楽のよさや文化的背景について、興味・関心をもち、自己のイメージをもって、曲想にふさわしい奏法や音色の探求する学習活動に、主体的・協働的に取り組もうとしている。 | |
| 観 | 点 | 評価 | 内容 |
| 知識・技能 | | ワークシート実技観察 | |
| 思考・判断・表現 | | ・ワークシート・実技観察 | |
| 主体的に学習し | こ取り組む態度 | ・振り返りシートの記述内容 ・教師による活動観察 | |

| 題材 | まとめ クラスコンサートを開催しよう |
|-------|--|
| 評価期間 | 12月~3月 |
| | (1) 演奏曲として選択した楽曲について、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背 |
| | 景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。または、創作作品を発 |
| 題材の目標 | 表する場合には、音素材や音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型 |
| | などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し |
| | て創作する。いずれの場合も、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要 |

な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表すことができる。

- (2) 演奏曲を特徴づける音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、 それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについ て考え、どのように表すかについて表現意図をもって演奏表現の創意工夫をし たり、相互鑑賞を通して、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴 いたりしている。
- (3) 他者と協力しながら、興味・関心をもってクラスコンサートの準備や本番に 臨み、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組み、豊かに音楽と関 わろうとする態度を養う。

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ・曲想と音楽の構造や文化的・ ・他者と協力しながら、興味・関 ・演奏曲を特徴づける音楽を形 歴史的背景などとの関わり及 づくっている要素や要素同士 心をもってクラスコンサート び音楽の多様性について理解 の関連を知覚し、それらの働 の準備や本番に臨み、主体的・ している。 きを感受しながら、知覚した 協働的に表現及び鑑賞の学習 ことと感受したこととの関わ ・創意工夫を生かした音楽表現 活動に取り組もうとしてい りについて考え、どのように をするために必要な技能を身 る。 に付け、歌唱、器楽、創作など 表すかについて表現意図をも で表している。 って演奏表現の創意工夫をし たり、相互鑑賞を通して、音楽 を評価しながらよさや美しさ を自ら味わって聴いたりして いる。 観 点 評 価 内 容 ・ワークシート 知識•技能 • 実技発表 ・ワークシート 思考・判断・表現 • 実技観察 • 実技発表 ・振り返りシートの記述内容 主体的に学習に取り組む態度 ・教師による活動観察